

目的

ポロト自然休養林内の80年生を超えるトドマツ人工林を、将来的に200年～300年生の針広混交林、広葉樹林に誘導し、アイヌ文化に密接にかかわる森林産物の持続的供給と多様な野生生物の生息の場とすることを目指します。

背景

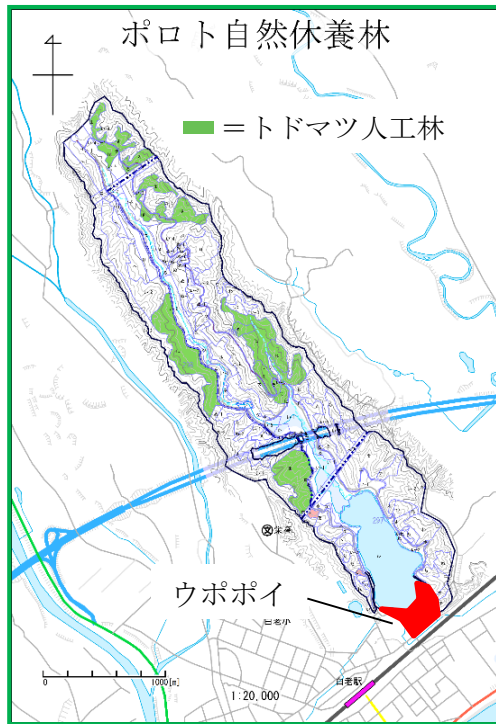
令和2年7月に、白老町ポロト湖畔にアイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとして民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）が開業しました。その後背地に広がるポロト自然休養林は、これらの施設の運用とも関連しながら、アイヌ文化を育む森林としての活用が一層求められる状況になっています。

胆振東部森林管理署では、ポロト自然休養林におけるアイヌ文化に貢献する森林づくりを推進するため、現在80年を超えるトドマツ人工林の主伐後にアイヌ文化とつながりの深いオヒョウニレ等の植栽・育成やオオウバユリ等の草本類の再生に向けて、白老町と連携して取り組むこととしています。

内容

今般、その前段として令和2年9月に多種多様にあるアイヌ文化にかかわる樹木のなかから、オヒョウニレ20本、アオダモ15本、エンジュ10本の3種類45本を試験的に植栽しました。植栽したオヒョウニレ等は餌の少ない冬期間にエゾシカの食害が懸念されます。このため植栽木の周囲にエゾシカ防止柵を約50メートル設置しました。

また、植栽木の形状安定も考慮し、高さ70センチメートルのシカ防護チューブも一本一本取り付けました。



9m × 15mのエゾシカ防止柵設置



職員による植栽及びシカ防護チューブ設置

今後の展開

トドマツ人工林内の風倒跡地及び主伐後の小さな無立木地などに、オヒョウニレ等の広葉樹の植栽を行っていくことにより、針広混交林、広葉樹林に誘導していきます。また、白老町及び関係団体とも連携を図りながら、分収造林地などの伐採跡地に、アイヌ文化に密接にかかわるその他樹木などの植栽も検討していきます。